

あなたを守る細胞診

細胞検査のプロ「細胞検査士」が、高い「精度」で細胞をチェックします。



細胞診ってこんな検査です！

●細胞検査士とは

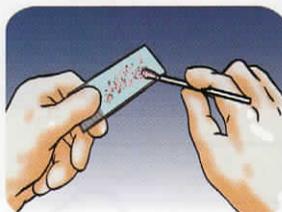
皆さんは「細胞診」という検査をご存知ですか？ 顕微鏡でがん細胞を探し出す検査が細胞診、そしてそれを担うがん検査の専門職が「細胞検査士」です。細胞検査士の使命は、細胞診断学の普及と技術の向上により国民の健康を守り続けることです。

●がん細胞を見つけ出す細胞検査士

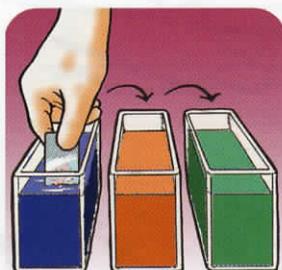
細胞検査士は、Cytotechnologist(CT)と呼ばれ、世界中の多くの国々で、日々、顕微鏡を操作しながら、がん細胞を探しています。

人間の体を形作る細胞は、およそ60兆個。その一つ一つは顕微鏡を使わないと見えない大きさです。そんな小さな細胞が、それぞれに決められた仕事を秩序正しく行ってくれるおかげで、私たちは健康に生活していくことができます。ところが、ときとして秩序を無視するように自由勝手に増え続け、最終的には命をもおびやかす細胞ができてしまう……これが「がん細胞」なのです。

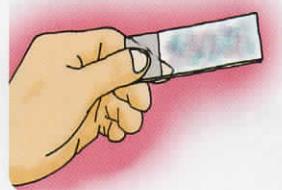
私たち細胞検査士は、細胞それぞれの形の変化を顕微鏡でとらえ、「良い細胞（良性細胞）」と「悪い細胞（悪性細胞：がん細胞）」を区別したり、たくさんの細胞の中からわずかな数のがん細胞でも見逃すことなく見つけ出すことができます。このような検査が「細胞診」、そして細胞診を担う専門資格を有した臨床検査技師が「細胞検査士」です。



1 採取された細胞をスライドガラスに塗ります。器具を使って採取する場合と（子宮頸がん検診など）、直接出されたものを塗る場合（尿や痰など）があります。



2 ほとんどの細胞には、はっきりした色がないため、いくつかの色素で色をつけて顕微鏡観察ができるようにします。この過程を染色と呼びます。近年は、専用の機械を使って自動染色をすることが多くなっています。



3 できあがった標本1枚あたり、数千～数万の細胞が塗られています。この中にたとえ1個でもがん細胞があれば、見落とさず探し出せる、それが細胞検査士の技術力です。



4 顕微鏡を使って、標本中の細胞をくまなく観察し、異常な細胞を探し出す作業を「スクリーニング」と呼びます。異常な細胞が見つければ、細胞診専門医といっしょに細胞を見て最終判定を行います。

細胞検査士の試験と更新制度（公益社団法人 日本臨床細胞学会・認定）

細胞検査士認定試験申請者
（臨床検査技師有資格者）

一次試験

1次試験
合格者

筆記・スライド試験



二次試験

2次試験
合格者
＝
細胞検査士

顕微鏡・実技試験

例年の合格率が30%前後というからかなり厳しい試験だと思いますよ。

●認定試験は毎年1回実施され、現在、6500人を超える細胞検査士が認定されています。

細胞検査士
資格取得

4年

資格更新

4年

資格更新

細胞検査士は、常に技術の維持と向上をめざしています！

細胞検査士資格は、4年ごとの更新制。更新のためには、4年間のうちに、定められた単位を取得しなければなりません。

単位取得の条件

- ・日常の細胞診業務に従事
- ・学術集会への参加
- ・研修会・セミナーへの参加